

編集 後記

梅雨に入り、花のように色とりどりの傘が開いています。会員の皆様も、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、関連業務に追われる日々をお過ごしのことと存じますが、どうぞご自愛ください。

日本公衆衛生雑誌68巻6号では、原著3報、公衆衛生活動1報、資料1報、特別論文1報、Letter1報と盛沢山の内容が掲載されています。原著の一つ、未治療陈旧性肺結核の潜在性結核感染症成績は、イソニアジド投与継続不能症例に対するリファンピシンの治療効果をみた臨床研究ですが、今なお公衆衛生上の重要な課題であることから、本誌へ報告されています。プロトコール通りに治療を行い分析された本研究は保健所と医療機関が協働して結核対策を構築してきた背景が垣間見れ、現在の新型コロナウイルス感染症への対応を喚起されます。公衆衛生活動では、妊娠中からの気になる母子支援連絡システム（岡山モデル）の8年間4500件に上る活動が丁寧に報告されています。ハイリスク者を見落とさずに支援し、虐待予防を行う中で、専門職の「気になる」という感覚が重要視されています。母子保健活動の現場で、「気になる」ことから支援に入るという長年行われている行為の意義が実証されているといえます。また、学術行政連携検討委員会の活動が特別論文への寄稿という形で、公衆衛生学分野での行政との連携方策について広く示されています。

「梅雨ごもり」が、爽やかな初夏への通過点であるように、新型コロナウイルスの「巣ごもり」も明るい未来への通過点であると願っています。人々の生活様式が変化し、それとともに公衆衛生上の新たな課題も生じてきます。様々な観点からの論文や報告をご投稿くださることを期待申し上げます。
(植田紀美子)

次号予告（第68巻・第7号）

原著

住民主体の通いの場における活動期間に応じた継続支援方法の考察……………江尻愛美，他
介護職における就業継続の意向を高める要因：
ユニットリーダーへのインタビューによる質的研究……………富永真己，他
食品摂取の多様性向上を目的とした10食品群の摂取チェック表『食べポチェック表』の効果に関する検討……………秦 俊貴，他
……………緒方靖恵，他

資料

都市部町内会における防災活動と町内会役員のリーダーシップおよび個人要因の関連……………相須咲希，他